

平成 2 6 年度決算について

< ポイント（一般会計） >

決算総額は、288億1,300万円（歳入）、284億5,400万円（歳出）と過去最大規模となりました。
平成25年度決算に引き続き、平成26年度決算においても臨時財政対策債を借り入れませんでした。
市税等収納率は、納税者のご理解・ご協力及び市担当職員のたゆまぬ努力により、平成25年度を上回る結果となりました。
経常収支比率は、市税・地方消費税交付金の増や基金の活用等により前年度比で0.3ポイント改善され95.8%となりましたが、引き続き歳出抑制に努める必要があります。

一般会計	平成26年度	平成25年度	主な増減理由等
歳入総額(千円)	28,813,133	26,157,814	市税 + 309百万円 地方消費税交付金 + 210百万円 社会資本整備総合交付金 + 584百万円
歳出総額(千円)	28,454,195	25,660,705	都計道3・4・10号線用地買収 + 936百万円 総合体育館耐震大規模改修工事 + 516百万円
翌年度繰越財源(千円)	73,657	100,207	(明許繰越・事故繰越分)
実質収支(千円)	285,281	396,902	(翌年度繰越額)
実質単年度収支(千円)	208,794	222,250	26年度実質収支(285,281) - 25年度実質収支(396,902) + 26年度財調基金積立額(202,827) + 26年度地方債繰上償還額(0) - 26年度財調基金取崩額(300,000)
市税収納率(%)	現年度分99.6 滞納繰越分45.8 合計98.9	現年度分99.4 滞納繰越分54.0 合計98.8	< 国保税 > H26: 現年95.8 滞繰46.2 合計90.9 H25: 現年95.3 滞繰47.1 合計89.2

一般会計	平成26年度	平成25年度	主な増減理由等
経常収支比率(%) (普通会計)	95.8	96.1	<分母:経常一般財源> +4億円(市税(+3億円)、地方消費税交付金(+2億円)、普通交付税の減(1.5億円)) <分子:経常経費充当一般財源等> +3.4億円(建設事業実施に伴う支弁人件費の増や職員退職手当基金繰入に伴う人件費の減(0.5)、公債費の減(0.5)が、繰出金(+ 0.2)、物件費(+0.3)等の伸びを吸収)
基金年度末残高(千円)	4,739,493	4,918,251	公共施設整備基金積立 + 207百万円 財政調整基金積立 + 203百万円 くにたち未来基金積立 + 73百万円 財政調整基金取り崩し 300百万円 道路及び水路整備基金取り崩し 194百万円
カッコ内は 定額運用基金含む場合	(5,300,693)	(5,479,451)	
歳入のうち臨時財政対策債 (千円)	0	0	平成25年度に引き続き借入は行いませんでした
地方債年度末残高(千円)	13,443,339	13,956,038	元利償還が進んだことによる

特別会計	平成26年度(千円)	平成25年度(千円)	主な増減理由等
国民健康保険歳入総額	7,226,422	7,257,244	給付費等の増
国民健康保険歳出総額	7,258,650	7,188,375	
下水道事業歳入総額	2,733,902	2,610,357	流域下水道負担金の増
下水道事業歳出総額	2,715,373	2,554,828	
下水道事業特別会計 地方債年度末残高	10,803,101	11,526,231	元利償還が進んだことによる
介護保険歳入総額	5,148,710	4,875,947	給付費等の増
介護保険歳出総額	4,969,727	4,788,947	
後期高齢者医療歳入総額	1,594,048	1,480,562	保険料改定に伴う保険料等負担金の増
後期高齢者医療歳出総額	1,556,255	1,433,157	